

12月9日開催 Microsoft Azure の始め方 6回シリーズ ～ 第2回 Azure 仮想マシンの作成と管理 ～

NO.	ご質問	回答
1	第1回参加出来なかったのですが、録画配信等はないでしょうか？	すべての回について録画をとってしまして、後ほど配信できるように準備を進めております。1-2週間ほど公開までお時間要してしまう可能性がございますが、今しばらくお待ち下さい。
2	ゾーンの番号が3つしか出ないのは、東日本リージョンが3か所だからですか？	はい、Azure東日本リージョンはZone1, Zone2, Zone3の3つになります。
3	Windowsサーバーのイメージは英語のみですか？日本語版はありますか？	はい、マーケットプレイスにあるWindows Serverには一部中国語版もありますが基本英語になります。日本語をご利用になる場合は、マーケットプレイスからは英語版で展開後、日本語の言語パックを追加することで日本語化されると良いと思います。または既に作成された日本語のWindows ServerのVMをキャプチャして、それをもとに複数のVMを展開することも可能です。
4	東日本リージョンと西日本リージョンで大きな差はありますか？	一つはリージョンのサイズが挙げられます。本日現在、西日本リージョンにはまだ可用性ゾーン（AZ）がございません。これが一番大きな違いかと思います。あとはどうしても需要の問題で、サービスが最初に展開されるのが東日本から始まるケースがございます（同時にリリースされるサービスも多数あります）。また、これは東日本と西日本だけの話ではありませんが、需要が多いサービスやリソースは価格が低い傾向がります。サービスやリソースによっては東日本、西日本で価格差がある場合もございますので、展開時にご確認いただければと思います。 最後に、可用性セットの"障害ドメイン"も東日本リージョンはMax3ですが、西日本はMax2というような細かな違いもあります。
5	①SYSPREPの実行、②展開、③展開元の再起動、の後、SYSPREPにより削除され初期化された展開元の情報を元に戻す作業（元情報を予め控えておき、設定する作業）が必要ということですか？	ご指摘の通りです。もし追加でカスタマイズが必要になったような場合などは、キャプチャした元の環境（Windows Server, Windows 10など）で電源をONにし、OOBEからインストール時のように一通り設定をしていく必要があります。

6	今回のデモで、仮想VM作成の前に仮想NWを作成したのは、仮想VM作成の必須（前提）となるからですね？	はい、画面上は仮想VM作成の時に合わせて仮想NWを新規で作ることもできますが、本来仮想マシンがNWの足を下すNWやセグメントは、NW全体を考慮して設計すべきですので、その流れを意識してデモされたと思います。
7	マネージドディスク・非マネージドディスクの選択はどういった基準で判断すれば良いでしょうか？それぞれのメリット・デメリット等ご教示頂ければと思います。	仮想マシンに直接接続するディスク（EドライブやFドライブなど）はManaged Diskの1択で多くの場合問題ありません。仮想マシンに接続するストレージ以外の用途、例えばData Lakeのようにあらゆる形式のデータをまとめて保存するような用途や、ログの長期保存先といった用途の場合は非マネージドディスクが最適です。
8	仮想マシンの予約購入は、途中でインスタンスタイプをあげることは可能でしょうか？	スペックを上げる場合、購入したインスタンスのスペックより上であれば、（コア数やメモリが）溢れた分は通常の従量課金で請求され、元々適用されている分については、インスタンスサイズのグループが変更されていなければ、引き続き割引が適用されます。 参考まで、購入したスペックより下であれば、インスタンスサイズのグループ変更がされていない前提ですが、そのまま割引が適用されます。ただしその際、購入した分が4コア、メモリ16GBのインスタンスから2コア、メモリ8GBのインスタンスへの変更などの場合には、半分RIがどこにも適用されず、無駄に消費されるようになりますのでご注意ください。
9	パブリックIP以外のIP(プライベートIP)は課金されますか？	プライベートIPは課金されません。